

平成23年度「キャリアデザイン」実践報告

「キャリアデザイン」委員会 奥村準子 竹内義晴 對崎加奈子 熊倉悠貴
福原行也 中井 毅 嶋田昌夫 金城幸廣
茂木好和 平野延行 後藤巻子 工藤泰三

本年度から大きくカリキュラムが変わった。昨年度まであった科目「起業基礎」、土曜日授業（任意）「アカデミア」の精神を受け継ぎながら、キャリア教育および科目「産業社会と人間」を補完する意味を持つ、土曜日隔週3時間の新科目「キャリアデザイン」が設定された。今後、1年次の「産業社会と人間」・「キャリアデザイン」、2年次の「総合的学習の時間」、3年次の「卒業研究」が本校キャリア教育の根幹をなすこととなる。本稿では、設定初年度、1年間の授業の取り組みの概要と今後の展望を述べる。

キーワード：キャリアデザイン 産業社会と人間 キャリア教育 学びのスキル
マネジメント・スキル

1. 設置の経緯

新学習指導要領の告知（平成21年3月）の時期から、新たな教育課程の編成に向けた校内会議がおこなわれ、土曜日授業の復活が検討された。授業時間確保の問題もあるが、土曜日の時間の使い方について学校側から魅力的な提案をして生徒の学習意欲を喚起することが重要であるとの考えが第一にあった。また、平日の7時間授業によって削られていた部活動の時間や放課後の生徒と教員のコミュニケーションの時間を確保し、ゆとりのある学校の生活時間を確保したい、との考えが第二の理由である。

土曜授業を考えるにあたって問題意識に挙げられたのは、中高接続の問題である。本校に入学してくる生徒の多くは高校受験のために塾に通うなどして中学3年でもかなり勉強時間を確保しているが、高校入学後はいわゆる「燃え尽き症候群」になって学習意欲が減退してしまう生徒も少なくない。また、授業の進め方（学習方法や授業のスピードなど）についても、中学と高校のギャップにとまどい、「勉強のしかたがわからない、ついていけない」などの理由から、学習意欲を失ってしまう生徒も多い。

こうした背景もあり、土曜授業では1年次の通常の授業展開では難しい「少人数授業」を実現し、「学ぶ楽しさ」を生徒に実感させるとともに、総合学科における学びのスキルを獲得させ、中高接続をスムーズにおこなうことをねらいとした新科目の設置を検討した。

2. 「産業社会と人間」との関係

総合学科では必修科目「産業社会と人間」が設置され、キャリア意識の醸成をめざした授業展開を本校でも実施している。平成23年度までは開発科目「産業理解」

（2単位）とともに、週3時間の帯と夏休み集中開講で4単位分を確保していた。「産業社会と人間・産業理解」は9名の教員が担当し、クラス単位または学年単位での授業展開が主になっていた。今回の開発科目は12名の担当者が13～14名という少人数の生徒を受け持ち、1学期をかけて丁寧に面倒をみていくことが異なる点である。通常の「産業社会と人間」はクラス担任と副担任が中心となって自分のクラスの生徒を見ていくが、「キャリアデザイン」の授業では、クラスに関係なく希望調査で選択した生徒の面倒をみていくことになる。1ヶ月に2回という授業回数であるため、生徒との関係性が希薄になるという課題もあるが、授業の課題として「学習活動の記録」を付けて毎回の授業で担当者に提出することで、生徒の普段の生活を確認することも担当者の支援活動の一つに据えている。担任団以外の「第三のサポーター」という位置づけである。

3. 科目の名称と目標

科目名である「キャリアデザイン」という名称には校内でも意見が別れた。1年次のよちよち歩きの生徒が「自分のキャリアをデザインまでできるのか」という意見が出され、校内の通称として「pupa（さなぎ）」という愛称が用いられることになった。入学したばかりの1年次生は総合学科での学びを少しずつ身につけ、やがてさなぎから蝶へ成長して行ってほしい、という願いも込められた命名である。

また、科目の目標については下記3点を掲げた。いずれも「スキルの獲得」を生徒に意識的に伝えることをめざしている。

(ア) 本校での学びを進めるための基礎力（学びのスキル）を身につける。

- (イ) 場面に応じた行動を取る能力（ソーシャル・スキル）を身につける。
- (ウ) 自己の生活をコントロールできる能力（マネジメント・スキル）を身につける。

4. 開講形態と開講までの流れ

- (ア) 各月偶数週の土曜日、8：40～11：20
(10分間の休憩を挟む1～3時限)
- (イ) 担当者：12名
(各13～14名の生徒を担当/学期毎に替える)
- (ウ) 担当者は事前に授業計画を提出
(A4用紙1枚程度、書式は固定)
- (エ) 第1回の授業までに、1：授業計画配布・希望調査（1年次生は授業計画を見て希望する講座を選ぶ 2：調整後、参加講座の発表をおこなう。

5. 授業の流れ（学期を通して）

：次の3ステップを必ず盛り込む。

①アイスブレイク：グループ内でのラポール（親密な信頼関係）を形成し、あとの活動を楽しく親密な雰囲気を進められるようにする。）

- ①「知る（調べる）」：講義・文献調査・ビデオ視聴等を通して、テーマについての知識・理解を深める。
- ②考える（整理する・まとめる）」：ディスカッション・アンケート調査・インタビュー活動などを通して、テーマについてより深く考察する。
- ③「発表する（伝える・発信する）」：考察したことについてレポートを作成するとともに、グループ内で発表活動を行う。また、他者の発表を聞き評価する。
- ④「批評する（評価する）」：自己評価や相互評価活動を通して、パフォーマンスや作品を客観的に評価したり他者との論戦を通して完成度を高めたり今後の方向性を考える契機とする。

6. 評価（5段階評価、各グループで評定平均が4.0程度になるよう調整する）

- (ア) 出席：1学期につき2回（6時限分）を越える欠席で評価「0」とする。
- (イ) 活動記録：毎回の活動を記録したもの。全体の10%。
- (ウ) レポート：活動を通して考察した内容をレポートにまとめたもの。2000字以上。全体の40%。提出がなければ評価「1」とする。
- (エ) 発表：グループ内での発表。全体の30%。
- (オ) 態度：授業に参加しようとする意欲等。全体の

10%。

(カ) 「キャリアデザイン (pupa) ファイル」の記入：記入・提出状況。全体の10%。

(キ) 「キャリアデザイン (pupa)」ファイルについて
：A5サイズの2穴ファイルにオリジナルリフィル（詰め替え用紙）、ポケットなどを添付し、下記コンテンツを年度の初めに配布・挿入させた。

- 1：年間（行事）計画
- 2：科目の目標（ねらい）・評価項目（割合）
- 3：学びのスキル・ソーシャルスキルに関する資料（『現代社会』資料集を1年次で購入、主要なスキルのページをA4サイズで印刷しファイルに挿入。『国語便覧』のページも印刷した）
- 4：2週間分の記録を見開き左1ページに、1回分の授業記録を見開き右1ページに記載。次の見開きは「ゆとり（記録）」ページとして空白。全6回×3学期=18見開きページ

7. 授業の構成要素（例）

【表1】

	(ア)学びのスキル	(イ)ソーシャル・スキル
①「知る」	・文献を探す（図書館の利用など） ・講義を聞く ・知った内容をまとめて記録する	・人の話を聞くときの適切な態度を取る ・不明な点について質問する
②「考える」	・調査のしかたを身につける ・問題解決の方法を提案する ・他者と意見を交換する ・他者の意見と自分の意見を区別する	・依頼のしかた・職員室でのマナーなどを身につける ・ディスカッションへの参加のしかたを身につける
③「発表する」	・レポートのまとめ方を身につける ・効果的な発表のしかたを身につける ・他者の発表を評価する ・他者の発表に質問する	・適切な体裁・文体でレポートを書く ・発表のマナーを身につける ・評価を受け止める態度を持つ ・質疑応答のマナーを身につける
(ウ)マネジメント・スキル		
・「つくさかソート」の活用（記入・チェック）を通して、自分の学習活動の状況を見つめ、やるべきことに取り組んでいるかを確認する作業を継続的にし、自律的に学習活動を行う能力を高める		

8. 授業計画の上で留意すること

- (ア) 土曜日に登校するだけの価値のある「感動体験」を与えられる授業を提供することが望ましい。
- (イ) 少人数での展開、クラスを超えたグループ構成により学びの楽しさを伝えられることが望ましい。
- (ウ) 実習や演習などを盛り込み、できるだけ生徒の主体性を促す授業展開が望ましい。
- (エ) 土曜日、午後の予定がないなどの条件を活かし、校外での学習を含めることも考慮したい。
- (オ) 「前にできなかったことができるようになったこと」「以前よりよくなったこと」を見つけ評価することで、自己肯定感の向上を支援したい。

9. 授業の実際

担当した教員の記録より紹介する。なお、全講座の内容および担当者の振り返りは章末の【資料】を参照のこと。

「面接時の基本マナーを検証する」をテーマにした担当者の初回4月23日の授業の記録より。

担当教員が集めていた新聞記事（コピーでなく新聞そのもの）を生徒の手に配布すると、全員が真剣に読み入っていたことに驚いた。予定外にしばらく説明を中断し時間をとった。講義を始めると指示をしなくともノートを取りはじめ、聴講時に身につけてほしい態度を既に持っていることにも驚いた。ゼミ形式のときも講義形式のときも、発問に対して挙手をして答えようとする姿勢を見せる生徒も複数いて、土曜授業に対する消極性を心配するよりも、生徒は大変前向きで、前提となる「自ら考えようとする意識」を持っていることがわかり、とてもやりやすかった。担任団の事前のご指導に感謝する。ゼミ形式でリラックスさせることも効果的だと思う反面、緊張感を体験させることも面接の演習時に必要とするため、流れに任せて進めたいと思っている。次回までに、各自でフィールドワークを行ってくるよう課題を与えた。

「歌でつながろう日本！和歌の言葉を学び、歌の魅力を語り合おう」のグループでは、和歌の歴史をふまえて造園された「六義園」の見学をおこなった。

5月14日の授業で「六義園」を見学しました。10時の集合に遅刻する生徒もなく、集合場所のJR駒込駅前に30分以上前から来る生徒もいたので、その場で「学習活動の記録」をチェックしながら面談しました。半数以上の生徒が丁寧に記録してありましたが、3～4名の生徒は空欄が目立つ記録だったり、ほとんど何も書いていない状況だったので、見学場所到着後、ガイドが始まるまでの時間に、全員でpupaファイルの回覧を行い、よく書けている生徒2名の記録を参考にしてもらいました。その後、ボランティアガイドの森田さん（事前に下見して、FAXでお願いしておいたので、私たち14名専門のガイドとして回ってくれることになりました。）にご挨拶をして、園内を散策しながら、六義園の歴史や自然、和歌との関わりなどを説明してもらいました。およそ90分にわたる説明だったので、電車から立ちっぱなしだった生徒は結構くたびれていましたが、概ね皆熱心にメモを取ったり写真を撮ったりしていました。（事

前に担当者から8つのチェックポイントを示し、画像を撮影したり記録を取るよう指示してありました。）

12時過ぎにガイドが終了し、御礼の挨拶をして、次の指示をした後に解散しました。生徒たちは近くのベンチに腰掛けて、チェックポイントやメモの確認などをして、撮影の足りない所を再度確認しにいく姿も見られました。

最終回の発表会での様子について、「パレスチナ問題について考える」のグループの記録を紹介する。

【当日の日程】

08:40～09:10 点呼 資料配付（本日の日程、発表相互評価表、pupaアンケート）黒板に テーマ記入、pupaノートチェック

09:15～10:25 前半7名の生徒が発表（3分 質疑3分）

10:30～11:20 後半7名の生徒が発表（3分 質疑3分）

11:20～11:35 キーワード1つと本日の感想

11:35～11:45 アンケート記入回収、相互評価・レポート提出 感想用紙配布 締切は7月1日

※紙レポートを改善したければ7月1日までにサーバーに保存の指示 ※7月19日までは全員データでサーバーに保存の指示

【担当者の感想】

・1600字のレポートを読むだけの生徒が多く事前の指導が足りなかったと思える

・3名ほど発表の後、ポイントと感想を発表するように指示したが後の祭り

・質疑も深いモノが出ず発表会としては失敗であった。

・生徒の様子は以下のとおり。

質問が多かった生徒（2名）、発表に工夫があった生徒（3名）、発表がまあ良かった生徒（1名）、発表で緊張の余り震えていた生徒（1名）、感想がPUPAの目的を網羅していた生徒（1名）、途中で寝ていて顔を洗いにいかせ、感想でやる気のなさを示していた生徒（1名）感想で周りを見ず話し続けた生徒（1名）

【改善点】

・事前指導で3～5分の使い方の指導を徹底させる

・レポートはレポート、発表は発表と区別させる

・レポートの書き方の指導を徹底

・司会者の指導を怠らない

・日誌の指導の適切な指導

10. 評価活動

学期末に生徒の自己評価アンケートを実施し、生徒が本科目の学習活動について目標の達成度をどのように捉えているか確認した。

◆自己評価アンケート（平成23年6月25日実施 回答数155/161名 96.3%）

各質問項目について、よくできた「4」・できた「3」・あまりできなかった「2」・全くできなかった「1」の4段階で回答させ、回答の平均値を算出した。

I 学びのスキルについて

【知る】	① 文献等、資料を適切に探せたか	3.20
	② 講義等で学んだ内容をきちんと記録できたか	3.16
【考える】	③ 調査の仕方が身についたか	3.28
	④ 問題点(課題)を明らかにすることができたか	3.13
	⑤ 問題点(課題)を自ら解決できたか	2.89
【発表する】	⑥ 他者と意見を交換できたか	3.02
	⑦ 自分の意見(考え)を持つことができたか	3.46
	⑧ レポートの内容を整理してまとめることができたか	3.04
	⑨ 効果的な発表の仕方が身についたか	2.91
	⑩ 他者の発表をよく聞いたか	3.55
	⑪ 発表内容に対して積極的に質問できたか	2.24

II ソーシャル・スキルについて

【知る】	① 人の話をきく際の態度は適切であったか	3.35
	② 必要に応じて、外部の人に不明な点について質問できたか	2.51
	③ 依頼の仕方等、社会的なマナーが身についたか	3.00
【発表する】	④ 適切な体裁・文体でレポートが書けたか	3.12
	⑤ 発表時のマナー(声の大きさ、言葉遣い等)が適切であったか	3.16
	⑥ 他人の評価(意見)を受け入れることができたか	3.47
	⑦ 質疑応答がきちんとできたか	2.59

III マネジメント・スキルについて

⑧	学習活動の記録を毎日きちんと書けたか	2.79
⑨	記入にあたり、自分なりの工夫ができたか	2.72
21	ノート(記録)を活用して自分の生活を豊かにできたか	2.56

特に評価度数が低かった項目は、「マネジメント・スキルと、「ソーシャル・スキルの質問に関する項目である。「学習活動の記録」を付けて日々の生活のふりかえりを促すことは、学習意欲喚起の面で非常に重要であるが、記録を取ることが苦手な生徒にとっては面倒な課題でもあるため、記録を取ることの重要性を理解させる工夫が必要であると感じた。「質問」に関する項目については、1年次生の「受け身の学習態度」という課題が浮き彫りになる結果となった。指示された活動については的確に作業できるが、主体性や問題意識をもって学習活動に取り組めるか、という点ではまだまだ課題が多い。

今後の課題である。

11. 今後の課題

開発途上の科目ゆえ、実施・運営面では今後もさまざまな課題があると考えられる。目下の課題は、施設使用上の調整が挙げられる。活動のまとめとして学期末にレポートの課題を課しているが、パソコン室の端末数は80しかなく、2学年320名が融通しながら使用している状況である。平成23年度は2学年であるが、次年度は教育課程移行期にあたり、3学年で使用することになるため登校日をずらすなど土曜日の教室使用は細かな調整が求められると予想される。

【資料】「キャリアデザイン」全講座の内容紹介と担当者による振り返り

No. 1	歌でつながろう日本！和歌のことはを学び、歌の魅力語り合おう	
使用教室：図書室	担当教諭（教科）：奥村 準子（国語科）	
<p>講座の目標：和歌は日本人が長い時間をかけて作り上げてきた優れた表現形式です。私たちは様々な感情を表現するためにことばを使いますが、豊かなことばを使いこなして自分の思いが他者に伝わることは大きな喜びです。あなたが好きな歌の魅力を自分ごととして伝えてください。そして、日本人がどんな美意識をもって和歌を伝えようとしてきたか、日本人のアイデンティティを探究していきましょう。</p>		
活動内容	第1回	全体ガイダンス（多目的室） アイスブレイク、授業の概要（展開・ルール）説明、フィールドワークに向けて
	第2回	六義園見学を通してフィールドワークの作法（記録の取り方、質問のしかた、資料のまとめ方など）を学ぶ。ボランティアガイド（およそ90分の説明）を事前に依頼。
	第3回	フィールドワークふりかえり（レポートのまとめ方） 撮影した画像の編集作業（コンピュータ室使用）
	第4回	プレゼンテーションの方法について（基本のマナーを学ぶ） 発表準備・指導（発表項目を絞る・独自の視点をもつ・展開を考える）
	第5回	発表会（合宿所） 質疑応答、相互評価、自己評価、レポート提出
<p>担当者からのメッセージ：歌は人を慰め勇気づける力があります。古今の歌を学んで「日本人とは何か」を考えるきっかけにしよう。 準備が必要なものなど：見学費用（入場料 300 円、駒込駅までの往復交通費）USB メモリ、デジタルカメラまたはカメラ機能付き携帯電話</p>		
<p>【本講座の成果】 入学して間もない生徒たちが、自分の力で外の世界に出かけていき、クラスの異なる受講者と協力関係をつくりながらフィールドワークを実施し、レポートにまとめるまでの作業を体験させた。また、毎回の「学習活動の記録」については受講者相互で閲覧させ、毎日の自分の学びをふりかえる作業の積み重ねが重要であることを指導した。レポート作成については、中学校までのコンピュータ利用経験の長さによって個人差が大きく、手書き提出の者も数多いため、USBメモリの使い方やバックアップを取ることを習慣づけるように促した。見学先の六義園ではデジタルカメラを持参して撮影する者が多かったが、撮影データの取り出し、word ファイルへの挿入などは苦労していたので、仲間同士で協力して課題をこなしていくよう指導した。ボランティアガイドへのお礼状作成もおこなった。</p>		
<p>【本講座の課題】 初めての発表会は、雰囲気や和らげ「和歌の世界」の演出も考え盡きかけた合宿所で実施してみた。レポート作成のものに時間がかかったためか、レポート本文をそのまま読み上げる生徒が多く、質疑応答もほとんどなかった。自己評価アンケートでも「発表内容に対して積極的に質問できたか」に対する達成度が低く、今後の課題といえる。</p>		
（奥村準子）		

No. 2	埼玉県の企業について
使用教室：計測制御室	担当教諭（教科）：金城 幸廣（工業科）
講座の目標：我が国の工業技術は世界でも注目されている、高い技術を持っている。そのベースになっている企業倫理等について学ぶ。	
活動内容	<p>第1回 全作ガイドランス（多目的室） アイズブレイク、授業の概要（展開・ルール）説明、フィールドワークに向けて</p> <p>第2回 三光産業株式会社（越生町）の工場見学を行う 学校に集合し、事前指導を行い、全員で見学工場に向かう</p> <p>第3回 フィールドワークふりかえり（レポートのまとめ方） 発表用のPPT作成</p> <p>第4回 プレゼンテーションの方法について（基本のマナーを学ぶ） 発表準備・指導（発表項目を絞る、独自の視点をもつ 展開を考える） 発表用のPPT作成</p> <p>第5回 発表活動 質疑応答、相互評価、指導者のコメント</p>
担当者からのメッセージ：埼玉県の企業について工場見学を行い、企業倫理を学び、道路選択の参考にしよう	
準備が必要なものなど：越生駅までの往復交通費	
【本講座の成果】 教育現場では実社会の様子を見学することは困難なことが多い。これから生徒は本校の様々な科目を学び、将来に備えていく。そこで早い時期に、実社会の様子を見学することは、その後の日々の学習や総合科目の特徴である科目選択に有効に繋がっていくことが予想される。見学した生徒はその後、企画部門、設計部門、製造部門、営業部門それぞれが重要であることを感じ、熱心に見学に取り組んでいた。通常の工場見学では、型にはまった見学場所、例えば生産ラインで製品が流れていく様子等の見学が多い。今回、見学について協力頂いた会社は実際にCADを使用して製品の設計を行う様子や、レーザー加工等、高価な工作機械を使用して部品を製作する様子、従業員が緊迫した様子や困難な工程に従事する様子等、企業現場の緊迫感が伝わった。また、見学後の質疑においても生徒からの積極的な質問等が行われ、それに対する、企業側からの的確な説明と解説が与えられ、工場見学が有意義であった。	
【本講座の課題】 現在、多くの企業がコスト削減や他社で企業努力が必要とされている。そこで見学する企業の選択が容易ではなかった。また、本講座設定の目標には近隣の企業に愛着を持ってほしいとの願いから近隣企業の見学を目標とした。したがって、列車の容易さや近隣企業の選択等で選定を行った。今回埼玉県の中小企業を中心として、多くの企業に精通している知人へ、見学する工場の紹介依頼ができたことが幸いであった。工場見学の事前指導において、1回の授業しかなく、十分な指導が取れなかったことも課題として残る。	
（金城幸廣）	

No. 4	『こんな夜更けにバナナかよ』
使用教室：福祉実習室	担当教諭（教科）：森田悠貴（福祉科）
講座の目標：筋ジストロフィーの患者とボランティアの日常を綴った『こんな夜更けにバナナかよ』を題材に、「障害」とは何なのか、「福祉」とは何なのかについて考え、自分の意見をもつ。	
活動内容	<p>第1回 アイズブレイク、授業の概要説明。 「障害」って何？今の自分の考えをまとめ、共有する。</p> <p>第2回 『こんな夜更けにバナナかよ』を読んで感想意見をまとめる。 感想、意見を共有する。</p> <p>第3回 「障害」に関するVTR視聴。 感想、意見を共有する。</p> <p>第4回 発表に向けた準備。 レポートの作成。</p> <p>第5回 発表活動。 振り返り。</p>
担当者からのメッセージ：「福祉」をやる人はいい人！？「障害者」は弱いひと！？…あなははどう思いますか？	
準備が必要なものなど：選部一史『こんな夜更けにバナナかよ』北海道新聞社 1890円	
【本講座の成果】 講座の最初に「障害」と聞いてどのようなことを思い浮かべるか聞いてみると、「大変」「かわいそう」などネガティブな面を挙げる一方で、「頑張っている」「えらい」などポジティブな面を挙げる生徒も聞けらう。ポジティブな意見のほうがより「障害」を理解していると思えるが、実はどちらにもある種の偏見が表れている。本講座では、障害者はいつも大変な思いをしている、あるいはいつも頑張っているという障害者像ではなく、奥さまも悪さも併せ持つ普通の人としての障害者像をもてらることを目標にした。そのために、障害者とその介助ボランティアの葛藤の日常生活を描いている『こんな夜更けにバナナかよ』を読み、その感想についてディスカッションしたり、VTRで理解を深めた。これまで障害者に出会ったこともない生徒もいたが、身体障害とは何か、筋ジストロフィーとは何かなど知識面の講義も行い、具体的にイメージしやすくなった。講座の最後に「障害」のイメージを聞くと、「できないところはあるけど、感情や考えていることは自分と何も変わらない」という意見も聞かれた。このことから、障害理解を深めることができる程度まで来たと思う。	
【本講座の課題】 これまでの障害者との出会いの有無や関心の度合いによって、学びの深まりに差が出てしまった。今回文献やVTRでの学習になったが、実際に障害者と出会う機会を豊富にするときに学びを深めることができたように思う。	
（熊倉悠貴）	

No. 3	色覚異常を持つ人のために
使用教室：3A教室	担当教諭（教科）：工藤 奏三（外国語科）
講座の目標：色覚異常について理解し、色覚異常を持つ人がより暮らしやすい社会を作るためにできることを考える活動を通して、学びのスキルとソーシャルスキルを高める。	
活動内容	<p>第1回 アイズブレイク/授業の概要（展開・ルール）説明/色覚検査体験/グループ分け/文献研究（次回までの課題）について説明</p> <p>第2回 文献レポート発表 実地調査（川越駅周辺で色覚異常の人が困りそうなこと・ものを探す）</p> <p>第3回 実地調査レポート発表 グループディスカッション（色覚異常の人のためにできることを話し合う）</p> <p>第4回 効果的なプレゼンテーションのしかた（説明） 各グループで発表準備/発表リハーサル（教員による指導）</p> <p>第5回 グループ発表・質疑応答 レポート作成・提出について説明</p>
担当者からのメッセージ： 爽も私も色覚異常を持っています。私たちがより暮らしやすくなる方法を皆さんで考えてください！	
準備が必要なものなど： USBメモリ・デジタルカメラ（携帯電話でもよい）・実地調査時の交通費	
【本講座の成果】 現在はほとんどの小・中学校で色覚検査を実施していない。その中で、色覚異常というものの存在すら知らないという生徒が予想以上に多かった。そのような生徒に色覚異常とはどのようなものであるかを知ってもらうとともに、それをどう捉え、色覚異常の人が持つ困難に対して社会をどう改善すべきかを考える機会を持たせることができたことは大きな成果である。 受講生徒たちにはこの講座での活動を通して、社会の中にはちょっと視点を変えようという問題があることに気づくこと、そしてその問題の解決のために自分たちにもできるようなことがあることを知り、それをこれからの学びに生かしてほしいと考えている。	
【本講座の課題】 ・1学期では発表資料の作成の仕方やプレゼンテーションの仕方の指導が不十分で、発表時にただ資料を読むだけの生徒が多かった（2学期にはリハーサルを含め指導の時間を確保することで改善できた）。 ・質疑応答が活発にならなかった。これは各組の発表内容に重複する部分が多かったからだと考えられるが、自分たちの発表に力を注ぐだけでなく、他者の発表を批判的に検証する態度を養う方法を検討すべきである。	
（工藤奏三）	

No. 5	面接時の基本マナーを検証する
使用教室：2C教室	担当教諭（教科）：後藤 孝子（家庭科）
就職活動や受験時に待たされることになる面接時の基本マナーの基本を、様々な視点から必要理由を考えた、方法を検証する。	
活動内容	<p>第1回 アイズブレイク/授業の概要（展開・ルール）説明 面接時のマナーを考える/フィールドワーク課題に向けて説明</p> <p>第2回 フィールドワークのふりかえり 文献調査に向けて説明/模擬面接とグループディスカッション</p> <p>第3回 文献調査のまとめ/面接練習体験とグループディスカッション/求められる「身に付いたマナー」検証結果のまとめ</p> <p>第4回 効果的なプレゼンテーションに向けて説明/発表準備 レポート作成に向けて説明/レポート作成準備</p> <p>第5回 成果発表・質疑応答/発表ふりかえり レポート作成・提出について説明</p>
担当者からのメッセージ： 面接時のマナーの基本を押さえて速く動き回れるようになり、本来発揮すべき自身のアピールに力を注ぎましょう。相手が求めるマナーの意味を考えると実践につなげたいと思っています。	
準備が必要なものなど： 【本講座の成果】 3年次受験直前の個人面接練習で、出入り方やおじぎ、身だしなみ、言葉遣いといった基本マナー練習時間の浪費をなくし、志望動機や自己アピールなどに費やすようにと立案した。本講座では、関心ある基本マナーを各ポイント選んで検証させた。検証方法は、自己紹介、フィールドワーク、文献調査、新聞読み取り、模擬面接とグループディスカッションである。 まず基本マナーの意義を学ばせることを前段に、「企業が求める力＝異能力」とはどのような実力のことが検証させた。フィールドワークにより正社員とアルバイトとの働き方を比較研究させたが、生徒の目にもその差が歴然と理解度が高かった。振り返りとして新聞記事にも注目させたほか、社会の動向を知らせるため、就活、就業力、後進時代時代のキーワードを新聞記事から読み解かせ、企業が個人に求める「即戦力」について自ら定義させるよう努めた。 模擬面接とグループディスカッションは、自身の行いがどう見えているかという視点に立った「相手が求める」基本マナーを認識することに繋がった。各自範囲は狭いが問題解決への理解が進み、自己判断力が養成されたほか、他の発表を通じてさらに検証結果を共有することもできた。	
【本講座の課題】 模擬面接は、教員からのアプローチでなく生徒主体で実施させた方が活発なディスカッションが期待できることがわかった。文献調査で面接要領のマニュアル本を選択しないよう、文献選びから検証方法についての流れをしっかりと説明し、深い考察につなげなければならない。他者の発表に対して批判的に検証する態度がなく、質疑応答が活発に行われなかったため、対処が必要である。	
（後藤孝子）	

No. 6	動物園にパンダは必要か？～動物園のあり方を考える～
使用教室：生物資源教室	担当教諭（教科）：嶋田晶夫（農業科）
講座の目標：ヒトはこれまでたくさんの動物たちと関わりを持って暮らしてきた。その一つである「動物園」は必要なものだろうか。高校生としての動物園の見方、考え方を身に付けていきたい。	
活動内容	第1回 アイスブレイク/授業の概要（展開・ルール）説明/色覚検査体験/グループ分け/文献研究（本までの課題）について説明
	第2回 動物園の役割、動物園の問題点、動物園のこれから、審について各自調査・発表 意見交換「動物園にパンダは必要か？」/動物園での調査の準備
	第3回 埼玉県こども動物自然公園における聞き取り調査ならびにオリエンテーリング参加。 各自のテーマに基づいた調査の実施。
	第4回 効果的なプレゼンテーションのしかた（説明） 各グループで発表準備/発表リハーサル（教員による指導）
	第5回 グループ発表・質疑応答 レポート作成・提出について説明
担当者からのメッセージ： この講座を通して、自分の目で見るとか考える力、そして行動する力を身に付けてほしいです。 準備が必要なものなど： フィールド学習費用：入園料 500 円、バス代往復 360 円 USB メモリやデジタルカメラ等	
【本講座の成果】 パンダ不在の状態が続いていた上野動物園に今春パンダが導入された。このニュースを基に、「動物園に人気動物は必要かという」議論を通して近代動物園のあり方について関心を持たせた。その上で実際に動物園を訪ね、現場での質問や調査を通して自分の考えを深めることができた。 この講座を通して、大半の生徒が「パンダは必要」という意見から「不要」とあると考えが変わったり、原案だけでは動物園の魅力に気づいていった。自分の目で見るとか考える必要性や行動力の大切さが今後の本校での学習に生かされること期待できる講座となった。	
【本講座の課題】 ・初回（1 学期）は指導者側の準備が不十分だったこともあり、最後までこの講座の目的は動物園にパンダが必要かを考えるだけだと理解した生徒が多かった。パンダ問題を通じて動物園に関心を持ちたり疑問を感じたりするまでには至らなかったのは残念であった。 ・本講座の価値は生徒が抱いた疑問を動物園という現場の専門家にぶつけることにある。よって、動物園側の理解がないと成果は得られない。幸い、訪問先の埼玉こども動物自然公園は動物園の使命である社会教育に力を入れている施設であったり、訪問日（土曜日）が2回とも雨天であったので職員の方が時間をかけて対応してくれた。他の動物園であったり、天候によっては期待される成果は得られないかもしれない。	
（嶋田晶夫）	

No. 7	パレスチナ問題について考える
使用教室：10教室	担当教諭（教科）：竹内真穂（地歴公民科/福祉科）
講座の目標：パレスチナ（中東）問題などを手がかりに世界の情勢、文化や宗教のことや何故紛争がおこるのかを考える事を目的とする。また情報収集方法と思考方法を学ぶ。	
活動内容	第1回 アイスブレイク、授業の概要（展開・ルール）説明、自己紹介 講義、課題①の確認（別教材付録DVD 2 項目×10 分の視聴感想文）
	第2回 課題①を基にディスカッション 講義、課題②の確認（分担した項目の文献調査）
	第3回 課題②の文献調査の結果を基にディスカッション 課題③を通して発表会での個人コンテンツの確認（発表活動の指導）
	第4回 発表準備・レポートまとめ 発表活動の指導
	第5回 発表活動（発表会） 振り返り・相互評価・レポート提出
担当者からのメッセージ： 考えるとはどういう事かを講義・問答・文献調査・議論・発表を通じて体感し理解する講座です。 準備が必要なものなど：テキストとして読者誌 編『私と世界』メディア総合研究所(2011)を購入する予定。また 堤三典・著『社会の真実の見つけ方』岩波ジュニア新書(2011)を購入しておくことが望ましい USB など必要	
【本講座の成果】 思っていたより問題意識の高い生徒が集まり、ディスカッションなど活発に行うことが出来た。自己管理のための日誌も10段階で評価をつけることにより、書き方なども質問してくるなど意欲的な生徒が多くなった。また調べ方なども3つの課題（DVD視聴感想・グループ別課題・個人発表用課題）を通して、進捗してきた。読者誌課題から徐々に難しい課題になり、それぞれ発表するという形が功を奏したといえる。また初の配属を口の子にしたために、相手の顔を確認しながら、質疑応答ができるよう配慮したことが円滑にコミュニケーションを取り合えた理由の一つだと感じられた。	
【本講座の課題】 発表用の資料を書かせたためか、最後の発表会においては資料を頼むという姿勢の生徒が多かった。これは提出レポートと発表テーマが同じだったために、レポートの草稿を頼むだけだと分析できる。このためを防ぐためには発表の仕方への指導を十分に行うこと、レポートと発表の違いを明確に認識させるよう心掛ける事が大切だと思える。知的好奇心を持たせ、取り組みをさせながら少しずつ調べ方や発表やレポートの書き方などを身に付けるには有効な授業であると思える。	
（竹内真穂）	

No. 8	広告から学ぼう！～人に魅力を伝える～
使用教室：商業デザイン室	担当教諭（教科）：野嶋 加奈子（商業科）
講座の目標：広告、企業（商品）と私たちを結ぶ大切なコミュニケーション手段。どうしたら関心を持ってもらい、人の心を動かすことができるのか。広告にはその工夫が溢れています。マーケティングの手法をたどり、実際に広告制作をしながら「伝えること」を学びます。	
活動内容	第1回 アイスブレイク、授業の概要（展開・ルール）説明 広告を知る・自分を知る
	第2回 広告制作の「調査する」＝ペアを組んだ相手の魅力を伝える広告を制作する 「伝えるものを知る」相手の魅力は何か、マナーの調査（ハアア）
	第3回 歴代の代表的な広告から「魅力を伝える表現」の工夫を学ぶ（70's/80's/東京見学） 街中に溢れる様々な広告表現を調査（ハドドク）
	第4回 広告制作の「制作する」 これまで調べたことをもとに、実際に広告（ポスター）を制作する
	第5回 発表会 レポート作成
担当者からのメッセージ：広告の種は、世の中、他人、そして自分に対する関心です。その種からどんな花を咲かせるかは人それぞれ。皆さんの柔軟かつ奇想天外な発想に出会えることを楽しみにしています！ 準備が必要なものなど： デジタルカメラがあると良い（なければ貸し出します）ペン・はさみ・のり・定規などの文具	
【本講座の成果】 当初は1年生ということもあり、アイスブレイクの意味を込めて広告制作を通して人に思いを伝える方法を学ぶことを講座の目標としていた。しかし実際にやってみると、生徒は「伝えること」以上に「意識して知ること」に大きな気づきを得たと感じた。様々な情報が溢れ風量と化している広告もある中、それらを意識してみることで、今まで気づかなかった作り手のメッセージや意図があることを知る。いつもなら日常の関わりの中で徐々に推し量っていく他者も、魅力を探すため意識して知っていく。こうした体験から、与えられる情報をそのままに受容するのではなく、与えられる情報の中から自らの意志で必要なものを読み取っていく視点を学べたことが、因らずもこの講座の一番の成果であったと考える。	
【本講座の課題】 上記の成果とも関連するが、「伝えること」と「知ること」に加え制作活動まで扱うのは、時間の面で難しく感じた。授業時間外での制作活動が不可欠となってしまったことや、広告作品以外での伝える場である発表会のプレゼンテーションまで具体的に指導できなかった点は今後改善が必要であると考えます。	
（野嶋加奈子）	

No. 9	ヲタクを語ろう！
使用教室：ビジネス実習室	担当教諭（教科）：中井 登（商業科）
講座の目標： 各自の「こだわり」を自分の中だけでとどめるのではなく、他者へ伝え、共感しあえる力をはぐくむ。	
活動内容	第1回 全体ガイダンス（多目的室）授業の概要（展開・ルール）説明 アイスブレイク（各自の「こだわり」発表会）
	第2回 アイスブレイク 読書 班結成 校外活動準備
	第3回 校外活動（班別行動、秋葉原周辺）
	第4回 各所で発表準備・リハーサル（教員による指導）
	第5回 発表活動・質疑応答 レポート作成・提出方法：期日等の連絡
担当者からのメッセージ： 入団でも、熱い「こだわり」を持っていると思います。アニヲク・ゲーヲク、音楽ヲク、鉄ヲク、その他こだわりがある人大歓迎です。それぞれの熱い「こだわり」を周囲に伝え、感動を共有しましょう。 準備が必要なものなど： 校外活動として秋葉原まで出かけます。交通費（人によりますが、2000円程度かかります）が必要です。	
【本講座の成果】 今の子どもの中には個に閉じこもり、他人とのコミュニケーションを苦手とする者も多い。閉じこもりの一回にもなりかねない「ヲタク」を通じて新たな人間関係を作れば良い、との教員の思いこみからこの講座を始めた。希望が叶わず、本講座を不本意に受講した生徒の中には、開講当初「ヲタク」の悪いイメージから、嫌悪感すら訴える生徒もいた。しかし、アイスブレイクで各自が「自分のこだわり」を粘く発表しあう中で、他人の意見に共感したり、「ヲタク」を肯定的に解釈したりする者も現れた。また、本講座で新たな友人を見つけた者もいるようである。	
班別発表やレポートの多くから、大変なやる気を感じられた。普段は無気力に見える生徒達が、実際に活き活きと語り、発表している姿を見て、学校生活ではなかなか見られない子ども達の裏の面を垣間見たよう、教員の視点からも非常に興味深かった。	
【本講座の課題】 テーマ設定を生徒各自に任せたために、その分野が多岐にわたってしまった。さらにそれぞれが、個々の事象について深く掘り下げたため、生徒同士はともかく、教員が理解するのに苦労した。校外実習では、秋葉原の町全体の魅力のおかげで生徒達は多くのことを感じたようである。しかし、事前学習をより丁寧に行えば、さらに多くの収穫が得られたのではと感じている。	
（中井 登）	

No.10	ダイエットと健康について
使用教室：1年A組HR教室	担当教諭(教科)：平野 延行(保健体育科)
講座の目標：近年高校生がダイエットに興味関心を示し色々なことに取り組んでいる。果たしてそれは本当の意味で健康に影響はないのだろうか?この点についてダイエットが健康に及ぼす影響について考える。	
活動内容	第1回 アイスブレイク/授業の概要(展開・ルール)説明 話し合い(誰を対象としたダイエットを考えるか) 第2回 ダイエットの歴史と種類について文献調査 女子栄養大学図書館を利用予定 文献調査のまとめ 第3回 ダイエットが健康に及ぼす影響について考える 効果的なプレゼンテーションのしかた(説明) 発表リハーサル及び指導 第4回 各人の発表 レポート作成・提出について説明 第5回
担当者からのメッセージ：高校期は、これからの将来を健康に過ごすために一番大切な時期である。これらのことを各人がしっかり考えたいものである	
準備が必要なものなど： ダイエットに関する資料や、本などは何でも良いから自分で用意する。	
【本講座の成果】 現在は様々なダイエット情報が氾濫している。これらのものをただ単に内容や体への変化を考えずに行くと大変な状況になってしまう。多々あるダイエットの中で何を選択してどのようなことに注意しながら健康維持増進を図ったらよいかを考える良い機会になったと思う。 生徒はそれぞれ色々な切り口を持ち自分の考えのなかから種類方法を選ぼうの方法が通じているかを考えて取り組んでいた。 また、本校卒業生には管理栄養士として仕事をしたと思っている生徒は、この授業の中で「子どもの肥満と食事」というテーマで研究を行い小学生が自分で食べる量をj知るために、あるいは自分で量をj用意できるようにすることを目標にしたものにまどめていった。大変すばらしくまどめられていた。	
【本講座の課題】 1学期はダイエットの歴史と種類についての調べ学習が中心となってしまった。そのため2学期は自分を対象にするのか又は自分以外の人を対象にした方法を考えさせるようにして進める必要があった。 時間が限られていたためどうしてもインターネットの内容を利用してしまふ傾向があり同じような内容になってしまう点や発表会での質疑応答に活発さが欠けてしまう。この点を検討すべきである。 (平野延行)	

No.11	環境問題とどう関わるか
使用教室：化学教室	担当教諭(教科)：福原行也(理科)
講座の目標：環境問題についての情報やデータの収集を行い、市民としてどのような行動をとるべきかについて考える。	
活動内容	第1回 全体ガイダンス(多目的室)、アイスブレイク、授業の概要(展開・ルール)説明、 科学関連問題と環境問題について(プリント配布) 第2回 環境科学国際センター訪問(湯原駅集合・解散)、センター見学、センター研究者 による講演「地球温暖化の現状」 第3回 実験放射線測定、実験NH4の測定、実験PO4の測定 第4回 環境問題とどう関わるか自分の提案、発表準備 第5回 発表活動
担当者からのメッセージ：加須市にある「環境科学国際センター」に行く予定です。同センターの研究者に講演をお願いしていますので、環境問題に興味があること、服装・髪型がきちんとしていることが本講座参加条件となります。また放射線測定器が借りられれば実験内容に変更があるかもしれません。	
準備が必要なものなど：「環境科学国際センター」までの交通費(人により異なるが約2000円)と実験教材費500円が必要です。	
【本講座の成果】 本講座は「環境問題」をテーマとしているが、ねらいは科学技術に関連する社会問題を考える機会を生徒に与えることにある。第1回の活動内容に「科学関連問題と環境問題について(プリント配布)」とあるのは、本講座を採らえさせないためである。社会問題の多くは科学技術と関連があり、理科の知識と自然探究の技能がなければ解決しないことに気付いて欲しかった。達成できたかは不明である。 二学期の第1回は校外に出た。加須市にある環境科学国際センターに行き、展示室で遊び、地球温暖化についての講演を聞いた。第2回は日本科学技術振興財団から放射線測定器を借りて学校敷地内の汚染状況を調査した。また身の回りの水の汚染状況も調査した。このように実際に環境測定を経験することはデータの現実性と不現実性を知る上で重要であると考えられる。この点に関しては、生徒は手応えを感じてくれたのではないかな。	
【本講座の課題】 何を根拠に自分の意見を構築するかが甘いように感じた。一学期は新聞記事に目を通すことを課題にしたが、二学期は時間の都合で放棄した。その結果ホームページからの情報がほとんどであった。書籍、雑誌、新聞、研究報告書等多様な情報を収集すべきと思うが、この点の指導が不十分であった。 (福原行也)	

No.12	エネルギー供給について
使用教室：CAD室	担当教諭(教科)：茂木 好和(工業科)
講座の目標：将来的に懸念されるエネルギー供給について、各種エネルギーを調べながら、安全・安定性を考え、安心・安全な社会の実現を目指す活動をjし、学びのスキル、ソーシャルスキルを高める。	
活動内容	第1回 全体ガイダンス(多目的室)/アイスブレイク、授業の概要(展開・ルール)説明/ 各種エネルギーの調査 第2回 各種エネルギーの調査 第3回 各種エネルギーの調査/中間発表/ディスカッション(各種エネルギーの安全性・安定性についての比較) 第4回 発表準備 第5回 発表
担当者からのメッセージ：現在または今後活用が見込まれるエネルギーには各種あります。安全・安定性を考えながら、どのようにしたら、安心・安全な社会の実現を目指すことができるか、みんなで考えてみましょう。	
準備が必要なものなど：USBメモリー(その他、必要となる場合は、事前に連絡)	
【本講座の成果】 東日本大震災による原発事故で生じた電力不足の影響をjに受けたこともあり、生徒の関心はかなり高く、多少の意欲の差はあったが、自主的なスムーズな展開がはかれた。また、発表で、自主的にパワーポイントを使用して発表する者もいた。実際に発表をj聞いても分かり易く、工夫を凝らして発表していることがうかがえた。このような質が、確実に自己を向上させていくもの思っている。この姿勢をj忘れて、次の機会に生かして欲しい。	
【本講座の課題】 ・レポートについては、もっと分かりやすく、まどめて欲しかった。今後、まどめ方の指導の時間をもっと取らなければと考えている。 ・発表態度、聞く態度ともjに問題は無かったが、質問が少なく、聴くだけとなってしまった。もっと、受け答えの場面が増える工夫をj思っている。 ・学習活動の記録については、生徒間の差がj欲しかった。詳細に書いている者もいれば、一言で済ませている者もいた。せめて、活動項目ごういは、書かせたいと思っている。 (茂木好和)	

補足資料

Pupa(キャリアデザインの通称)授業の実践記録「パレスチナ問題」3回目(全5回中)

担当教員：竹内義晴(地歴公民・福祉科) 科目：キャリアデザイン(pupa)(学校設定科目 教科 産業) 対象：1年次生14名(女子7名・男子7名) 使用映像：綾部真雄編『私と世界』メディア総合研究所(2011)付録DVDの短編映画《ヒジャブ》8分《トランス》6分 使用教科書：なし(教材として『私と世界』4章・6章を前回までに使用) 時間：土曜日1～3時限 50分×3=150分(途中休憩1回)

<3回目 2011年5月28日(土)の流れ>

全員出席(メディア総合研究所の福田訓久氏参観) 前回と同様に机を口の字に並べ開始

08:40～(1D HR)

①点呼・参観者紹介②今日の授業展開の説明と今後の日程(竹内)③pupaノートチェック…5段階でつける 平均3 最高4.4 平行で発表の準備④DVD「トランス」感想の発表(8名)

⑤「トランス」についてのディスカッション(司会 竹内) 10:05～【休憩】…本日までで集金14人中13人払う(未納は1名のみ)

10:15～

⑥DVD「ヒジャブ」感想発表(6名)⑦「ヒジャブ」についてのディスカッション⑧「パレスチナ問題」について補足(竹内)…10分⑨各自のテーマ決め⑩時間がないので月曜に紙で提出) *次回の予告と課題の指示

⑪福田氏に感想コメントを頂く

11:30終了

授業記録（参観していたメディア総研福田氏の記録より）

前回からの課題

《ヒジャブ》と《トレランス》を観て、どちらかについて発表準備をする。

《トレランス》の自由発表

生徒1：文明を築き上げてきたのに、もう一方の文明の方が「こちらの方が優れている」と思い込んだことから戦争になり、お互いを倒しあう結果となってしまった。この先戦争のない世の中にするには、お互いの良いところを認め合う必要があると思った。

■：今起きている戦争に関しても「認め合わなきゃだめだ」と言えばそれで戦争はおさまるのかな。

生徒1：そういうわけにもいかない。

■：他の生徒の意見も聞きながら一緒にいろいろと考えよう。

生徒2：文明を発達させた人類が宗教等で争いあい、最後はお互いに傷つけ合うことを表現したのだと思った。宗教の違いによる戦争で傷つけあうのは悲しいと思った。

■：どこから宗教を感じた？

生徒2：拝んでいたところから。

■：悲しいのはなぜ？

生徒2：作るのは大変だけど、壊すのは簡単。直すのには時間を要する。また戦えばまた壊れる。

生徒3：相手と競い合うが、最後には何も残らず、自分も滅ぼしてしまうことを伝えたのだと思う。

■：競争がよくないって言うこと？

生徒3：競争すべてが悪いわけではないが、戦争は良くない。

生徒4：今も昔も民族や宗教や文明の違いから争いになるということと、だからこそ認め合って平和にしていこうという作者の意図があると感じた。

■：宗教や文明が違うってことはつまり、何が違うの？

生徒4：考え方や価値。

■：作者は、違いから戦いになるということ伝えて終わりの？

生徒4：良い所も悪いところも認め合って、世界を平和にしていこうというメッセージがあるのでは。

生徒5：この作品は言葉が使われていないが、観ているうちに理解できた。2、3回観た。今の時代と同じ様な部分がある。例えば、言いがかりから暴力に発展していくことや、やられたらやり返すことや、強い武器を開発して互いに滅ぶ点は今の戦争に似ている。それを分かりやすく表現しているのだと思った。

■：今の戦争とかをアニメで表現して、作者は何を伝えたかったの？

生徒5：互いに滅ぶ結果になるから戦争は良くないと伝えた。

生徒6：内容がよく理解できなかったが、争いをして相手が傷ついているのを見て喜ぶ人がいる事が分かった。他人を恨み妬み、戦争が起きるのだと思った。自分だけのために生きずに、助け合って世界の皆が生きていければ暖かい世界ができるのと思った。タイトルが気になった。タイトルの「トレランス」には寛容とか忍耐などの意味がある。この作品のどちらかが我慢すればこのような結果にならなかった。でも、弱い立場の人が常に我慢するのもおかしい。世界が平和になるには武力は使わず、相手の意見を良く聞き、よく理解することが大事だと思った。私も普段の人間関係の中でも日頃からそのような人にな

れるようにしたい。これらのキーワードは普段の人間関係とも関係があると思った。

■：普段から我慢してるの？

生徒6：私はしてないです。笑

■：表現できる人もいるし、なかなか表現できない人もいるんだよね。その人の意見も聞かないと。黙っているからイエスと言うわけではないもんね。

→トレランスの意味を辞書で調べる→

スペルもみんなと共有。「寛容、雅量、忍耐、医学用語では耐性」という意味がある。

■：タイトルには作者のメッセージがあるから、それを調べたのはすごく良いこと。

生徒7：人はどんな時代でも戦う意思、武器を持つ。そうやっていくうちに滅んでいく。

■：滅んでいっちゃう、と言ったけどそれはしょうがないこと？

生徒7：しょうがなくはないけど。

■：アニメだから、本当に戦っているわけじゃないけど、本当に人間は戦ってきたのかな…どこで入手した情報？誰から聞いた？昔の人から聞いたの？皆も考えて。テレビで流している事はすべて本当？

放送している部分だけで判断するしかないけど、例えば、震災に関しても、本当はゴジラが来て壊したかもしれない。情報には気をつけなければいけない部分があるよね。

生徒8：それ化学の時間にやった。テレビとかはスポンサーがいてお金が絡むから情報操作とかするって。不利益なことは流さない。原発は悪いことだと意識させないように放送することとかある。

■：皆に言いたいのは、噂、テレビと出版物の違いも分かってほしい。時間をかけて作った本の情報とポンと出たツイッターの情報には違いがあるよね。出版物には責任がある。ウィキペディアのように自由に書き込めるものとは違う。

生徒9：この作品では、戦争について分かりやすく表現して良かった。互いのシンボルが違うだけで戦争になった。最後は二人とも倒れてしまい悲しかった。2人だけでもあの状況なのに、それが国同士になったらもっと悲惨でむなしと思った。今でも戦争をしている国の人々が戦争の虚しさを知る日が来ると良いと思った。

■：2人だけでも「喧嘩」じゃなくて「戦争」って表現するのはどうして？例えば小学1年生が観たらあれは「たたかい・喧嘩」だと言うかもしれないのに、どうして皆は「戦争」だと思うの？

生徒8：武器を使うから。大きな武器だから。喧嘩と戦争は巻き込むものの大きさが違う。

■：そのようなことを、皆は情報や知識、経験から想像できるんだよね。このpupaの授業ではそうやって脳が柔らかくなったり、変化していることを自覚してほしい。

《トレランス》のディスカッション

■発表者以外の皆はどんなことを思った？

●宗教や文明の違いで2つしかない国が戦うのは悲しい。

●悲しいと思った？

●悲しいけど・・・ね。戦争が起きたから良くなったこともある。国を良くするための戦争もあったのでは。でも悲しいけ

ど。

●プライドが高いとか、自己中心的な考えの人が戦争をするのでは。先日テレビで大戦の事を観た。プライドが高いと、一度戦争を始めるとなかなかやめられないって。自国を良くするための戦争もあるのかもしれないけど、自己中心的な考え方で戦争という手段をつかうのは良くない。

■戦争は人が死ぬが、例えば、国の利益のために企業の海外進出などによって公害・病気などが出た場合は許される？

●国の発展のためにやったことで被害を与えた場合、それは良くない。やめろと言う。

■戦争の場合、やめろと言ってやめられるわけではない。規模が違うんだね。今現在、戦争するしないを決めるのは誰だろう？

●外務省かな・・・ 総理大臣かな・・・

■日本では総理大臣。アメリカだったら大統領。埼玉県と東京の戦いは戦争とは言わない。戦争は規模が大きい。

●人間は便利とか楽を求めている。そのために戦争を起こすのでは？「自分」が大変にならないように。

●便利といえばウォッシュレットを思い浮かべる。あそこまで便利を追求するのって。

●時間も関係していると思う。「モモ」で読んだ。（※エンディングの「モモ」は春休みの読書課題だった）

■作者はどうして「トレランス」というタイトルを付けたのだろう。

●あの2者は戦わない方法もあった。トレランスには医学用語で毒に対する耐性という意味があるけど、「毒＝他の宗教」と捉えているのでは。

●あの2者には、見ない・気にしない・関わらないという方法もあったのでは。

●でも関わりを持たないと相手を許せない。

●大事なものは、隣に違う人がいてもしっかりと「自分は自分」を持つこと。

●トレランス（寛容）という事が作品の中では無かった。寛容ではなかった。だからあえて付けたのでは。

■トレランスという単語の意味を知ったことは大きな収穫でしたね。

《ヒジャブ》の自由発表

生徒10：初めて身近に宗教を感じた。なぜ少女はヒジャブを外すことを拒んでいたのか。なぜヒジャブを禁止するのかと疑問に思った。ヒジャブの持つ意味など、色々知りたいと思ったけど、同時に深くはまることも怖いと感じた。

■日本の学校について、海外の人から見たら疑問に思う事があるのかも考えているといい。

生徒11：ヒジャブと帽子の違いは何だろうと思った。差別をなくすために皆と同じ格好をするように言うが、逆にこれは宗教に対する差別だと思った。

■もし自分があの学校の先生だったらどう？

生徒11：宗教は自分達の考えだからそんなに強く言えないと思う。この作品の中では解決していないが、この作品は宗教に対する差別の現実を見せてくれた。

生徒12：あの女の子は、イスラム教徒でもあるが、自分に自信を持っていないのかも考えた。ヒジャブを外して教室に入った時、宗教を乗り越え、出身国の差別もなく、皆同じになれた

ということも考えた。

■自信がないとは顔を隠すという意味？それとも宗教によってアイデンティティにつなげることで自信を持っているの？

生徒12：彼女は宗教に頼っていると思う。

■でも信じている人にとっては呼吸をするようなものかもしれない。

生徒12：先生に言われて外すくらいの信仰なのかも思った。

生徒13：ヒジャブに関する記事を見た。ヒジャブを付けている女性にも様々な理由があることを知った。その上で少女の気持ちを考えた。彼女には宗教に対する気持ちもあるけど、女性としての面もあるのでは。例えば、私も本来の自分よりも良く見せようと化粧などをして先生に注意されるけど、実際に記事にもファッションとしてヒジャブを着けているという女性もいた。

■：その記事はどこで見つけたの？

生徒13：時間がなかったのでインターネットで調べました。

■：ネットは簡単で早いけど、何かを調べる際は文献も使って欲しい。そうするともっと自信を持って発表できる。

生徒8：映画の最初のシーンでは、多様性を表現していると感じた。でも学校では多様性を区別している。この作品には、グローバル化の中で本当に社会は区別の目を無くそうとしているのか…という投げかけの意味があるのでは。ピアスは許されるのにヒジャブはダメというのは平等を崩している。平等・自由の本質、つまり表向きだけじゃなくて「自由の本質とは？」

■あなたにとって自由の本質とは？

生徒8：秩序と義務。自由には主張する権利もある。その権利を守るために秩序と義務がある。

■肌の色とかで差別してはいけない、社会はどうなのかというメッセージがこの作品にはあると言ったけど、あなたは思う？

生徒8：人間として暗黙の了解として守らなければいけない。人種差別は、その人種の先人達が築いてきたものに泥を塗る行為だと思う。オバマが当選した時に、白人の子が「黒人の大統領は嫌だ」と言っているのをテレビで観た。

生徒14：ヒジャブを通して、差別をなくそうとしている行動によっておこる差別を表現していると思った。ヨーロッパやアメリカの学校では、宗教に関する物の持ち込みを禁止することが多い。これは学校にとっては都合がよいが、今回の少女みたいな人にとっては学校の規則だけで自分自身を変えられてしまうことになる。とても恐ろしいことだと思った。差別をなくそうとして逆に差別を生む事もあるのだと考えた。テキストでもアフーマティブアクションについて触れられていた。差別をなくす取り組みは大切だが、逆差別を生むのもよくない。行動を起こす前に、互いの違いを良く理解することが大切だと思った。

■サンデルの「正義についての話をしよう」の本を読んだ？

生徒14：読んでいる最中です。

■逆差別はよくないと生徒14は考えたけど、他の生徒はどう？

生徒4：やはりいけない。争いの種になるのなら宗教的な物は禁止してもしようがない。 などの意見。

《ヒジャブ》のディスカッション

■発表者以外の人はどう思った？

●「ヒジャブはダメでピアスはOK」はおかしいと思った。

●人種について考えた。メジャーリーグと日本の野球の差を思った時、多種多様な人々がいる方がいいと思った。

■「外国人」のイメージは？

●言葉が違う・背が高い・金髪・目が青い・白人系・声が高い・色々な人・カラフル・鼻が高い・しぐさ（ジェスチャー）・黒人とか白人・黒人・背が高くて強そう・テンション高い白人・目がでかい・黒人・ゴリマッチョ などの意見が出る。

■どうして欧米とか白人をイメージするのだろうか？

●サッカーをよく観るから。白人の方が身近。白人の方がイメージある。友人がいる。接した経験から。 などの意見が出る。

■実は皆は色々な経験や体験、教えられたこと、などからイメージを持つ。教育も大きな要素だけど。イメージはつくられるということに分かってほしい。そのつくられたイメージから差別が作られることもある。イメージと戦うことは難しい。だからこそ日本のCMのクオリティは高い。あれをイメージ戦略と呼ぶ。

ピンクはステキ・・・だからピンクはいいよね・・・というムードになる。イメージによってつくられたものをどこでどう判断するかが大事。判断する際の情報にも気を付けなければならない。

今日のキーワードとして、情報源がある。情報源としての文献。これは大事。時間とお金をかけてできた情報だからその分いい加減ではない。購入しなくとも図書館・図書室も利用できる。

サンデルの『正義についての話をしよう』のような本もおもしろいかもしれないよ。

●はい